

2023年3月期第3四半期  
決算説明資料


2023年2月24日

東証プライム： 6333



株式会社 帝国電機製作所

1. 2023年3月期第3四半期決算
2. 2023年3月期業績見通し
3. 環境にやさしい当社の事業
4. 参考資料



世界中の様々な場所で活躍している  
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの  
リーディングカンパニーです

# 1. 2023年3月期第3四半期決算



株式会社 帝国電機製作所

# 2023年3月期第3四半期決算概要



株式会社 帝国電機製作所

(百万円)	2022年3月期 第3四半期	構成比 (%)	2023年3月期 第3四半期	構成比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	15,925	100.0	<b>20,618</b>	100.0	+4,693	+29.5
売上原価	9,483	59.5	<b>11,792</b>	57.2	+2,308	+24.3
売上総利益	6,442	40.5	<b>8,826</b>	42.8	+2,384	+37.0
販売費及び一般管理費	4,629	29.1	<b>5,059</b>	24.5	+429	+9.3
営業利益	1,812	11.4	<b>3,767</b>	18.3	+1,954	+107.9
経常利益	2,111	13.3	<b>4,144</b>	20.1	+2,033	+96.3
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,404	8.8	<b>2,871</b>	13.9	+1,467	+104.5

## 増収増益

### 売上高

- ・ポンプ事業は、高水準の受注残高に加え、円安によるプラス影響等により増収。中国や米国を中心に全体としても堅調に推移。
- ・電子部品事業は、緩やかな回復傾向。電子部品不足は改善傾向ではあるが不安定な状況が続いている。

### 営業利益

- ・ポンプ事業における売上ボリュームの増加や円安によるプラス影響、及び主に中国における好調な受注環境を背景とした利益率改善等により増益。

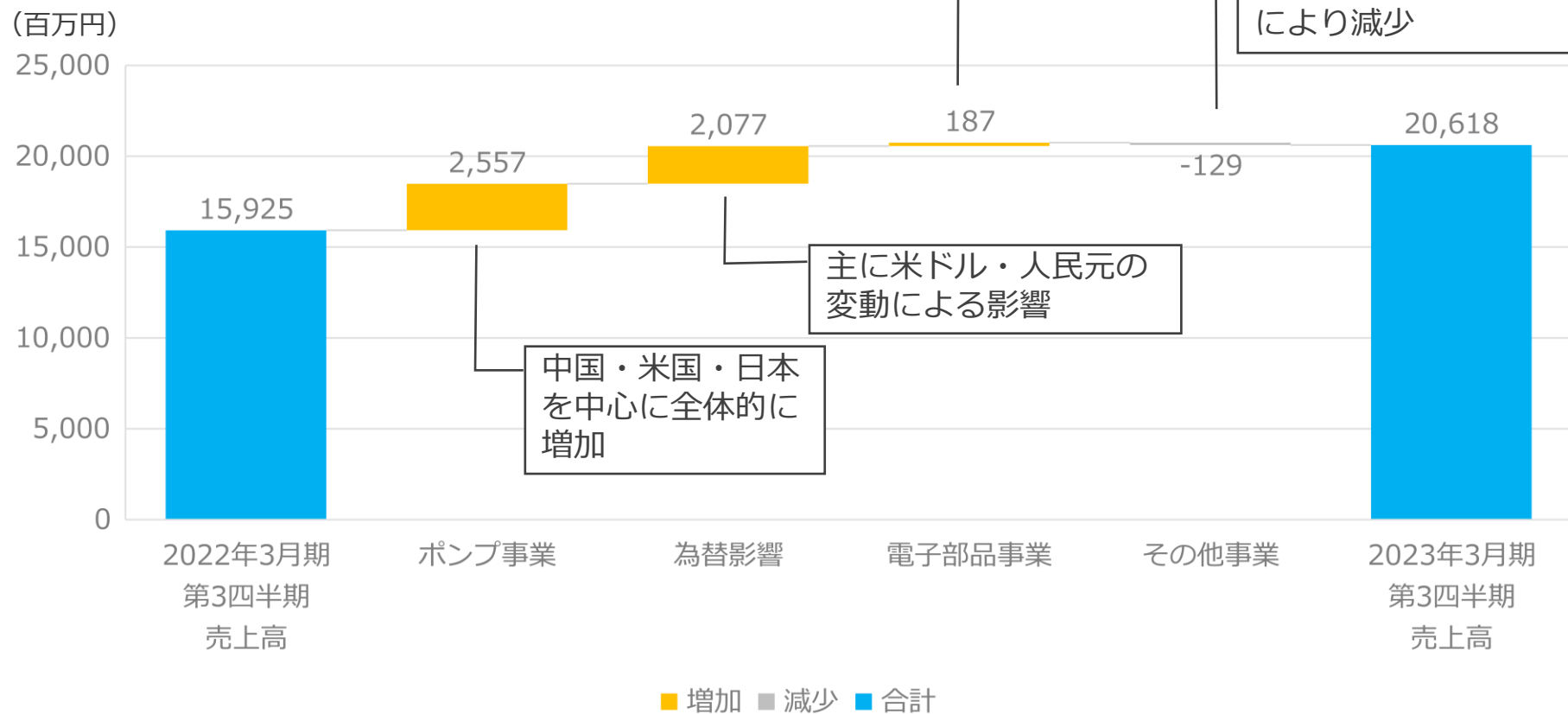
### 親会社株主に帰属する 四半期純利益

- ・営業利益の増加に加え為替差益が前期比123百万円増加し、経常利益が2,033百万円増加したこと及び政策保有株式の一部売却で25百万円の特別利益が発生したことにより増益。

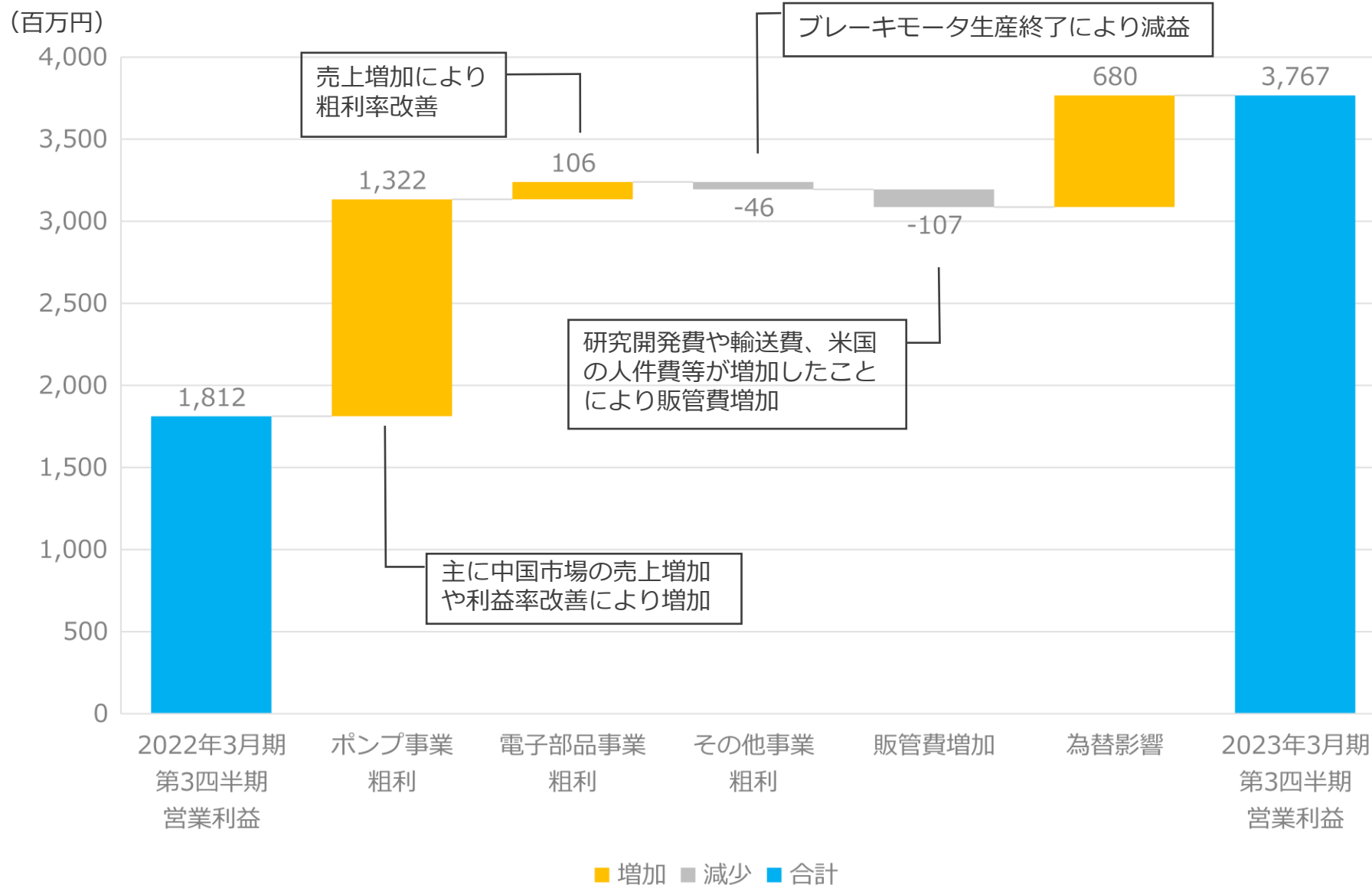
# 売上高増減分析



期中平均レート推移	2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期
USドル	108.6円	128.3円
人民元	16.8円	19.4円
ユーロ	129.9円	136.1円



# 営業利益増減分析



# 種類別セグメント（売上高・営業利益）



(百万円)		2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	増減	増減率
ポンプ事業	売上高	14,522	<b>19,157</b>	+4,635	+31.9%
	営業利益 (営業利益率)	1,784 (12.3%)	<b>3,669</b> <b>(19.2%)</b>	+1,885	+105.6% (+6.9%)
電子部品事業	売上高	1,103	<b>1,290</b>	+187	+17.0%
	営業利益 (営業利益率)	▲7 (-%)	<b>82</b> <b>(6.4%)</b>	+90	-% (-%)
その他	売上高	299	<b>170</b>	▲129	▲43.1%
	営業利益 (営業利益率)	35 (11.8%)	<b>14</b> <b>(8.7%)</b>	▲20	▲57.8% (▲3.1%)
合計	売上高	15,925	<b>20,618</b>	+4,693	+29.5%
	営業利益 (営業利益率)	1,812 (11.4%)	<b>3,767</b> <b>(18.3%)</b>	+1,954	+107.9% (+6.9%)



# ポンプ事業 所在地別売上高



- 日本・高水準の受注残高を背景に増収。主にケミカル向けや輸出の半導体向けが堅調。
- 欧米・米国はケミカル向けや冷凍・空調機器向けが堅調に推移したことに加え、為替影響もあり増収。
- アジア・中国は高水準の受注残高を背景にケミカルや車両向けを中心に好調に推移したことに加え、為替影響もあり増収。

(百万円)		2022年3月期 第3四半期	2023年3月期 第3四半期	増減	増減率
日本	売上高	4,854	<b>5,318</b>	+464	+9.6%
欧米	売上高	3,472	<b>4,789</b>	+1,317	+37.9%
アジア	売上高	6,195	<b>9,049</b>	+2,853	+46.1%
合計		14,522	<b>19,157</b>	+4,635	+31.9%

※販売元が基準（外部顧客に対する売上でセグメント間は除く）

## ●主にケミカル機器用が増加

(百万円)	2022年3月期 第3四半期	比率 (%)	2023年3月期 第3四半期	比率 (%)	増減	増減率 (%)
ケミカル機器用	7,642	52.6	<b>11,117</b>	58.0	+3,474	+45.5
冷凍機・空調機器用	1,579	10.9	<b>1,673</b>	8.7	+93	+5.9
電力用（車両用）	393	2.7	<b>721</b>	3.8	+328	+83.4
電力用（地上用）	418	2.9	<b>491</b>	2.6	+73	+17.5
定量注入機器	345	2.4	<b>265</b>	1.4	▲79	▲23.1
その他ポンプ	143	1.0	<b>358</b>	1.9	+215	+150.4
メンテナンス	4,000	27.5	<b>4,531</b>	23.6	+530	+13.3
合計	14,522	100.0	<b>19,157</b>	100.0	+4,635	+31.9

●ポンプ受注は日本、中国、米国を中心に堅調に推移

(百万円)	2022年3月期 第3四半期		2023年3月期 第3四半期		増減	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
ポンプ事業	17,455	10,635	<b>21,629</b>	<b>13,238</b>	+4,173	+2,603
電子部品事業	1,092	153	<b>1,258</b>	<b>145</b>	+165	▲7
その他	242	86	<b>151</b>	<b>97</b>	▲90	+10
<b>合計</b>	18,790	10,875	<b>23,039</b>	<b>13,481</b>	+4,248	+2,605

# 貸借対照表のポイント




(百万円)

資産の部	2023年3月期 第3四半期	前期末増減
<b>流動資産</b>	<b>30,825</b>	+2,725
現預金	14,267	▲173
受取手形、売掛金 及び契約資産	8,077	+1,473
電子記録債権	1,719	+440
製品・仕掛品 原材料・貯蔵品	6,644	+1,433
<b>固定資産</b>	<b>10,747</b>	▲154
有形固定資産	8,609	▲80
無形固定資産	138	▲43
投資その他の資産	1,999	▲30
<b>資産合計</b>	<b>41,572</b>	+2,571

負債の部	2023年3月期 第3四半期	前期末増減
<b>流動負債</b>	<b>8,324</b>	+956
支払手形・ 買掛金	2,353	+242
電子記録債務	703	+67
短期借入金	380	+40
未払法人税等	774	+277
その他	4,113	+329
<b>固定負債</b>	<b>1,667</b>	+325
<b>純資産</b>	<b>31,580</b>	+1,289
(内自己株式) (※)	(▲2,034)	(▲169)
<b>負債・純資産合計</b>	<b>41,572</b>	+2,571

※ 2022年2月9日及び2022年11月11日開催の取締役会決議に基づき、当第3四半期累計期間において自己株式1,489百万円の取得を行いました。また、2022年7月28日付で、譲渡制限付株式報酬として自己株式10,800株の処分を行い、2022年11月25日付で自己株式900,000株の消却を行いました。この結果、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が2,034百万円となっております。



世界中の様々な場所で活躍している  
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの  
リーディングカンパニーです

## 2. 2023年3月期業績見通し

(※前回公表時からの変更はありません)



株式会社 帝国電機製作所

# 業績見通しの前提条件 (※2022年11月11日業績修正後)



セグメント別		
ポンプ事業	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国・米国を中心に全体としても堅調に推移していることに加え、為替影響がプラスに寄与していることから売上は当初計画を上回る見込み。</li> <li>下期売上において、利益率の高い中国が横ばいである一方で米国が増加する見通しであるが、米国は輸送費や人件費等が増加していること、また日本の研究開発費等が増加すること等から、下期利益率は上期に比べ低下する見込み。</li> </ul>
	日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内・輸出とも堅調ではあるものの、売上は当初計画を下回る見込み。</li> </ul>
	欧米	<ul style="list-style-type: none"> <li>米国は、足許の受注ペースは落ちているものの、サプライチェーンの混乱が解消しつつあり、積み上がった受注残高が解消されてきていることから下期売上は増加する見込みであること、及び為替影響がプラスに寄与することから、通期売上は当初計画を上回る見込み。</li> </ul>
	アジア	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に中国において、高水準の受注残高により、売上は下期も上期と同水準で推移する見込み。為替影響もプラスに寄与することから、通期売上は当初計画を上回る見込み。</li> </ul>
電子部品事業		<ul style="list-style-type: none"> <li>部品不足は改善されつつあるものの、自動車減産の影響等が続く見込みであることから、当初計画を下回る見込み。</li> </ul>

※ インドを除く海外現地法人の決算期は12月（インドは3月）

計画為替レート(期中平均)

(修正予想レート) 1US \$ =133.0円、1€=137.0円、1元=19.5円、1KRW=0.09円、1INR=1.5円  
 (当初予想レート: 1US \$ =120.0円、1€=130.0円、1元=18.0円、1KRW=0.09円、1INR=1.5円)  
 (前期実績レート: 1US \$ =109.9円、1€=129.9円、1元=17.0円、1KRW=0.1円、1INR=1.5円)

# 今期計画（業績見通し）



(百万円)	2022年3月期 (実績)	構成比 (%)	2023年3月期 (当初予想)	2023年3月期 (修正予想)			前期比	当初 予想比	
				構成比 (%)	(上期実績)	(下期計画)			
売上高	22,244	100	<b>24,740</b>	<b>26,730</b>	100	12,909	13,821	+4,486	+1,990
売上原価	13,192	59.3	<b>14,980</b>	<b>15,420</b>	57.7	7,413	8,007	+2,228	+440
売上総利益	9,052	40.7	<b>9,760</b>	<b>11,310</b>	42.3	5,496	5,814	+2,258	+1,550
販売費及び 一般管理費	6,557	29.5	<b>6,820</b>	<b>6,830</b>	25.6	3,207	3,623	+273	+10
営業利益	2,494	11.2	<b>2,940</b>	<b>4,480</b>	16.8	2,288	2,192	+1,986	+1,540
経常利益	2,953	13.3	<b>3,130</b>	<b>5,050</b>	18.9	2,774	2,276	+2,097	+1,920
親会社株主 に帰属する 当期純利益	1,987	8.9	<b>2,140</b>	<b>3,520</b>	13.2	1,894	1,626	+1,533	+1,380

# 種類別セグメント見通し（売上高・営業利益）



	(百万円)	2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (当初予想)	2023年3月期 (修正予想)		当初 予想比	
				(上期実績)	(下期計画)		
ポンプ事業	売上高	20,365	<b>22,810</b>	<b>24,870</b>	11,985	12,885	+2,060
	営業利益 (営業利益率)	2,443 (12.0%)	<b>2,860 (12.5%)</b>	<b>4,400 (17.7%)</b>	2,248	2,152	+1,540
電子部品事業	売上高	1,528	<b>1,720</b>	<b>1,650</b>	805	845	▲70
	営業利益 (営業利益率)	19 (1.3%)	<b>70 (4.1%)</b>	<b>60 (3.6%)</b>	27	33	▲10
その他	売上高	350	<b>210</b>	<b>210</b>	118	92	0
	営業利益 (営業利益率)	32 (9.2%)	<b>10 (4.8%)</b>	<b>20 (9.5%)</b>	12	8	+10
合計	売上高	22,244	<b>24,740</b>	<b>26,730</b>	12,909	13,821	+1,990
	営業利益 (営業利益率)	2,494 (11.2%)	<b>2,940 (11.9%)</b>	<b>4,480 (16.8%)</b>	2,288	2,192	+1,540



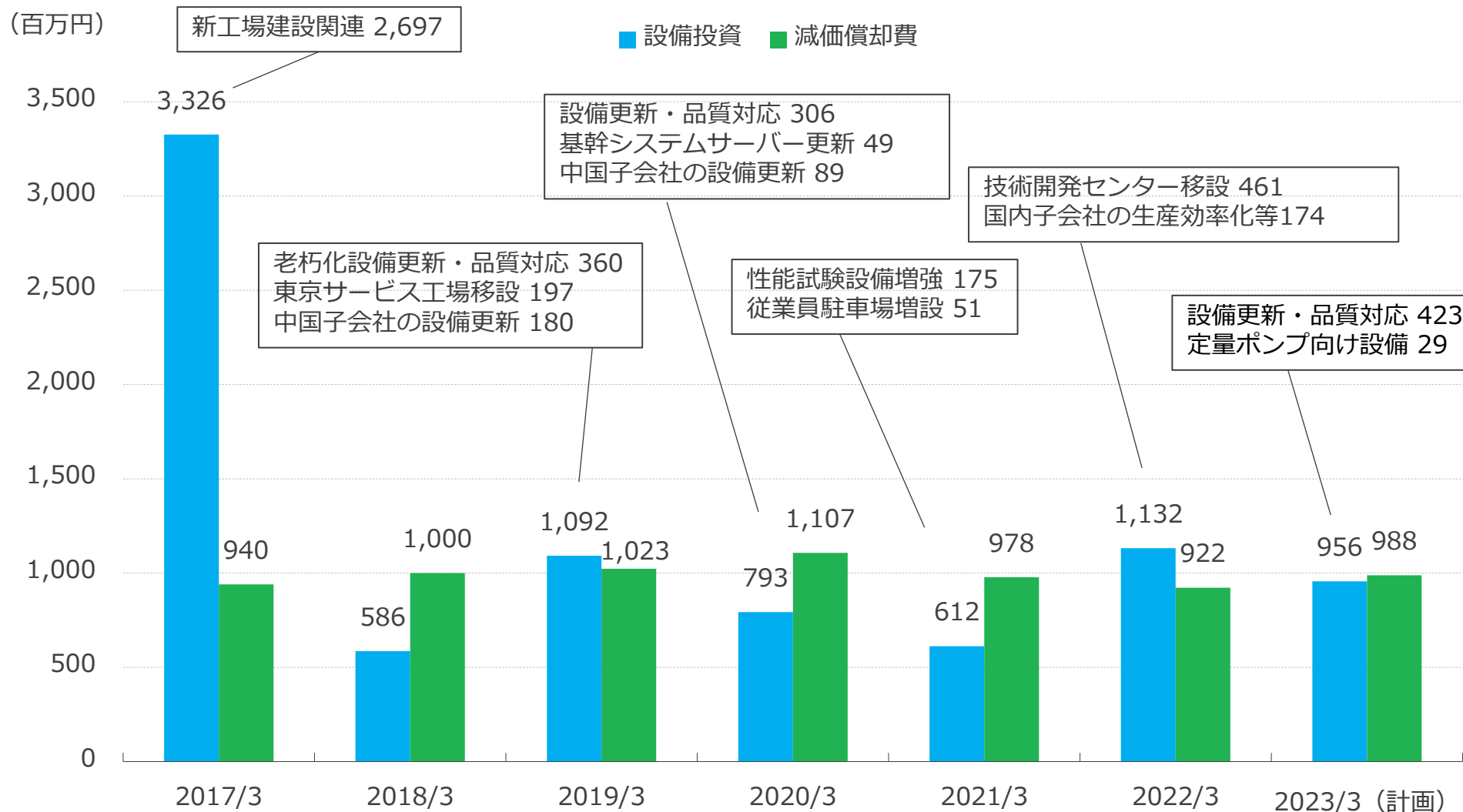
# ポンプ事業 所在地別売上高見通し




(百万円)	2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (当初予想)	2023年3月期 (修正予想)		当初 予想比
			(上期実績)	(下期計画)	
日本	6,679	<b>7,450</b>	<b>6,860</b>	3,674	▲590
欧米	4,901	<b>5,980</b>	<b>6,720</b>	2,722	+740
アジア	8,785	<b>9,380</b>	<b>11,290</b>	5,589	+1,910
合計	20,365	<b>22,810</b>	<b>24,870</b>	11,985	+2,060

※販売元が基準(外部顧客に対する売上でセグメント間は除く)

# 設備投資・減価償却費計画





世界中の様々な場所で活躍している  
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの  
リーディングカンパニーです

### 3. 環境に優しい当社の事業① - 当社キャンドモーターポンプの強み -

(※前回公表時からの変更はありません)



株式会社 帝国電機製作所

当社は液漏れしない（無公害）キャンドモーターポンプのNO1メーカー  
地球環境問題解決へ貢献度が高いポジショニング

## ポンプは社会のキー・コンポーネント

- ①ポンプは最も効率的な液体移送装置の一つ、社会インフラ構築や成長・発展に不可欠
- ②数多くあるポンプのうち、  
「**キャンドモータポンプ**」は、環境に優しい完全無公害（液漏れしない）機能・構造

当社：キャンドモータポンプの「世界首位シェア\*」メーカー

\*当社調べ

当社の「キャンドモータポンプ」で  
社会インフラ構築・成長・発展と環境問題解決の両立可能



# 当社の主力製品「キャンドモータポンプ」

完全受注生産により顧客・業界のニーズに応じて多様な用途を開発  
(下記は一例)

	基本型	多くの用途で使用されている標準的なタイプ		超耐熱型	高温液向けにモータの耐熱温度を大幅に高めたタイプ
	リバーサーキュレーション型 (縦型)	液化ガス等の気化しやすい液体向け (液体アンモニア等で使用)		インタンク (ポット) 型	ポンプ部全体が取扱液に浸かるため冷却状態を保持しやすく、低温液化ガス (LNG、液体アンモニア等) で使用
	小型高速型	高速回転を実現化しコンパクト化。半導体洗浄装置や燃料電池、サーバー冷却等で使用		API685用	API685規格に適合したタイプ (高温高圧のハイドロカーボン等で使用)

## ポンプ機能を環境負荷ゼロで実現

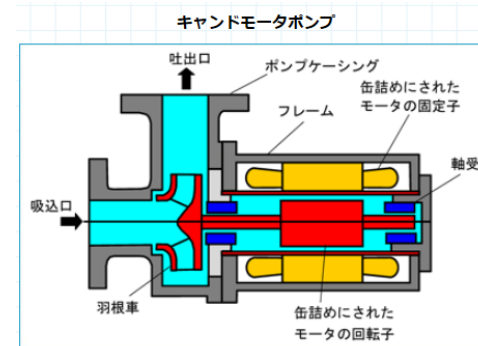
- ・ポンプ機能：液体の動きを運動エネルギーに変える非常に効率的な仕組み
- ・キャンドモータポンプ：  
ポンプとモータが一体化した完全密閉型構造で  
構造的に液漏れしない・長期間メンテナンス不要 → 環境負荷0%

\*環境対策に優れた数々の特徴を内包

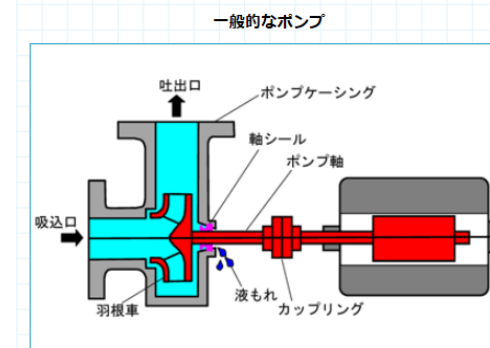
\*密閉型構造で液漏れせず  
機能・取扱で安心・安全を100%担保

### キャンドモータポンプの優れた特徴

<p><b>1 完全無漏洩</b></p>  <p>取り扱い液が外部に漏れるおそれがないので、人体に有害な液、爆発や引火しやすい液、高価な液、腐食性のある液などの取り扱いに適しています。</p>	<p><b>2 外気との接触なし</b></p>  <p>外気を吸い込まないので、真空系での運転、外気に触れると変質する液などの取り扱いに適しています。</p>	<p><b>3 幅広い圧力・温度に対応</b></p>  <p>軸シールがないので、系の圧力が高い、高温液、低温液、高融点液などを取り扱うポンプの製作が容易です。</p>
<p><b>4 潤滑油いらす</b></p>  <p>潤滑油を必要としないので、取り扱い液の汚染がなく、給油の手間が不要です。</p>	<p><b>5 小型軽量で省スペース</b></p>  <p>モータ軸がポンプ軸を兼ねているので、小型軽量で設置場所をとらない、分解点検が容易です。</p>	<p><b>6 静かな運転音</b></p>  <p>モータを冷却するファンがないので運転音が静かです。</p>



ポンプとモータを一体化し、密閉された構造であるため漏洩しません。



軸シール部から漏洩してしまいます。

## 当社はキャンドモータポンプ世界シェアNO1

なぜか？

### キャンドモータポンプが選ばれる理由

- ・機能面
  - ・液漏れしない（臭い漏れも無し）
  - ・幅広い温度に対応
  - ・高圧プロセスに対応
  - ・真空プロセスに対応
  - ・長期間メンテナンス不要（潤滑油不要）
  - ・省スペース
  - ・運転音が静か
- ・コスト面
  - ・メンテナンス周期が長い  
ためランニングコストが安い
  - ・**価格+環境負荷コスト**が  
一般ポンプより安い

### 当社のキャンドモータポンプが選ばれる理由

- ・「電機メーカー」を祖業とするモータの技術力
- ・「顧客第一主義」から生まれる高品質・サービス
  - ・ 専門メーカーとして機能・部材を  
知り尽くしたノウハウを結集した高品質
  - ・ 顧客への個別密着対応で、きめ細かいサービス
  - ・ 短納期対応
  - ・ 世界の規格への対応力（シリーズ化）
  - ・ 老舗企業としてのブランド力・先行者利益



# 「ポンプ」 専門メーカーとしての強み



株式会社 帝国電機製作所

## 専門メーカーとして製品に対する深い知識

当社は「キャンドモータポンプ」を知り尽くしている

## 顧客密着型営業

顧客ニーズを掘り起こし、課題解決型提案営業を展開

高い成約率 → トップシェア

## 更に既存顧客と密接な関係を構築

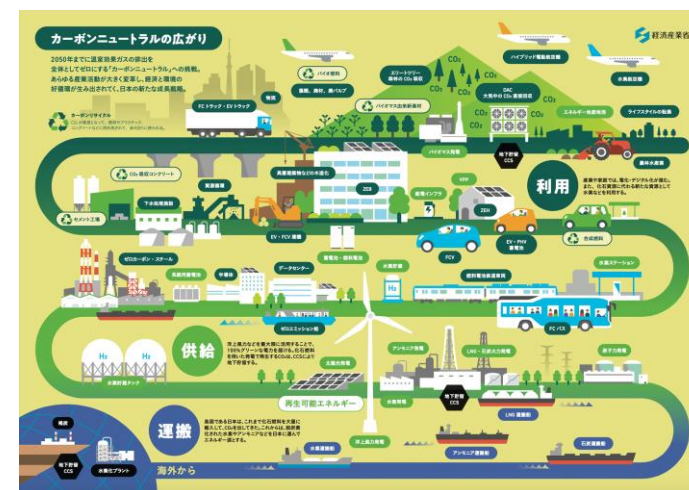
迅速な顧客対応で、  
メンテナンス需要や更新需要に的確に対応

更なるシェアアップへ

キャンドモータポンプで  
確固たるポジション  
(世界シェア約3割で首位)


+

環境問題・脱炭素ビジネス  
でも最先端のポジションへ



<出典：経済産業省「カーボンニュートラルのつながり」>





世界中の様々な場所で活躍している  
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの  
リーディングカンパニーです

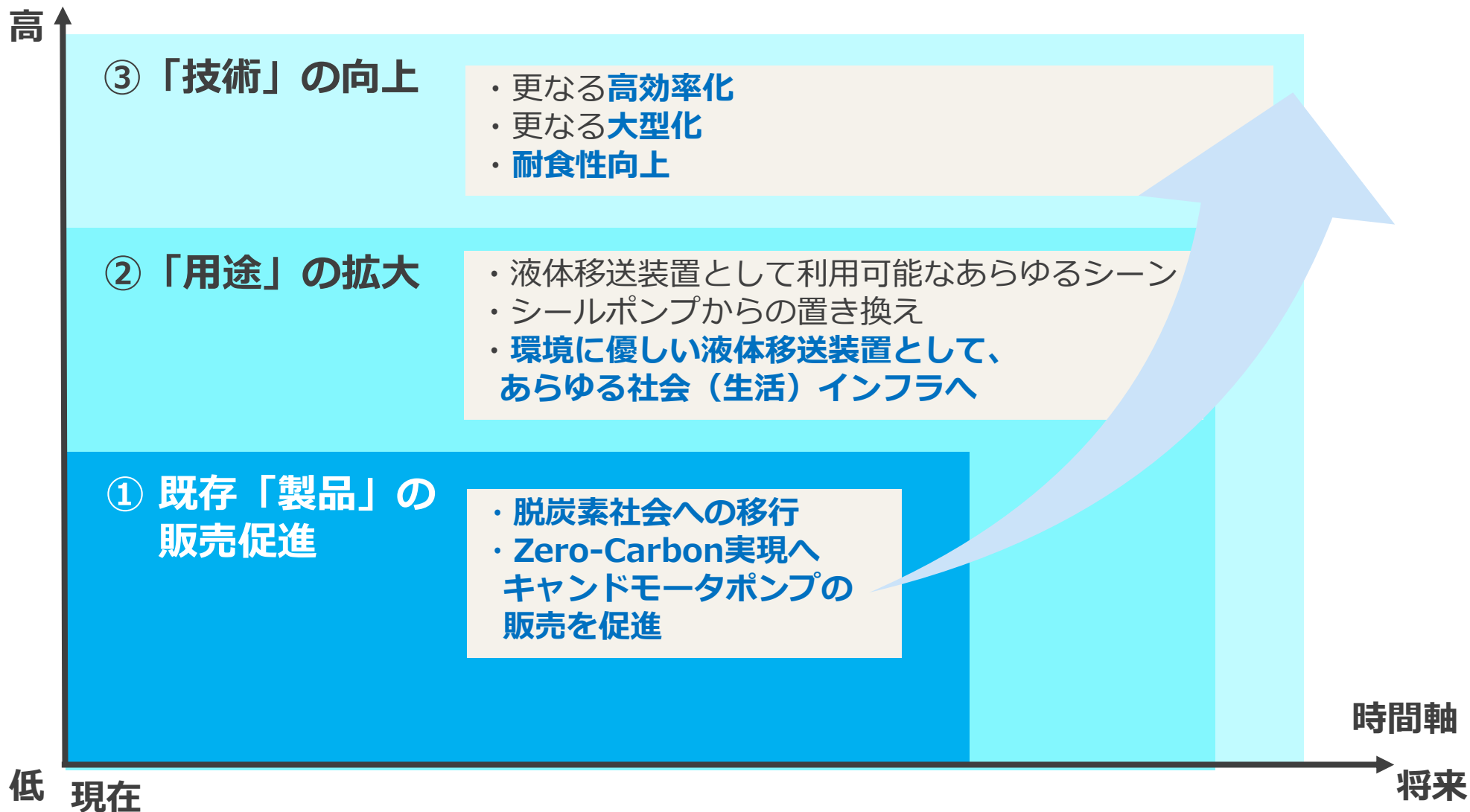
## 3. 環境に優しい当社の事業② -キャンドモーターポンプの可能性と当社成長シナリオ-

(※前回公表時からの変更はありません)



株式会社 帝国電機製作所

## 難易度 「環境に優しい特性」を契機に「主カポンプのポジション」獲得へ



# キャンドモータポンプに期待される需要



完全無公害（液漏れしない）なので  
成熟する国内市場だけでなく海外市場もターゲット

成長期待性：高



成長期待性：低～中



既存国内成長市場での置き換え

従来、環境対策を特に意識していなかった用途での「キャンドモータポンプ」への更新需要が発生（逡減市場から逡増市場へ）



+

環境対策プロジェクトの増加による新規需要  
(環境対策ポンプ市場の創出)

地球環境保全のために  
新たなシステム・フレームワークの構築ニーズが発生（新市場創出）

成長期待性：中～高



海外市場での需要の高まり

環境対策意識の高まりに応じて  
米国（キャンドモータポンプの普及率が低い）など成長市場での新たな需要の発生  
(成長率が加速的上昇)

+

・各種環境対策に  
キャンドモータポンプが必要  
脱炭素（アンモニア混焼火力発電、  
アンモニア燃料船、  
SAF、CCS/CCUS、蓄電池生産など）  
環境汚染防止・省資源化  
(工場排水処理、生分解性プラスチック生産、ケミカルリサイクルなど)

## 環境問題は、「社会全体」の課題

環境問題は全ての会社が課題と認識

## 問題解決は、「横並び」で浸透へ

- ・ トップシェアや有力メーカーだけが対応する問題ではない。
- ・ 業界・業種ごとに、大手から中小企業まで各社、一斉に解決に動く

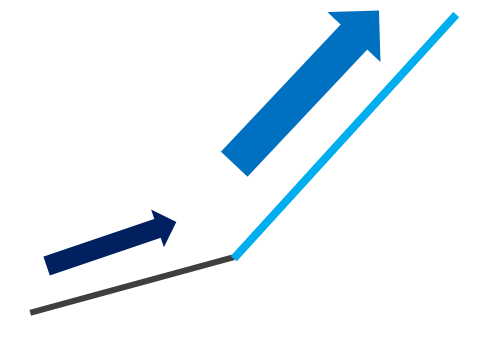
環境に優しいキャンドモータポンプへの  
需要が急速に高まる

将来的に当社への受注が各業界から一定期間に  
集中的に来る可能性がある

## 当社成長カーブ

「緩やか」 → 「急角度へ」

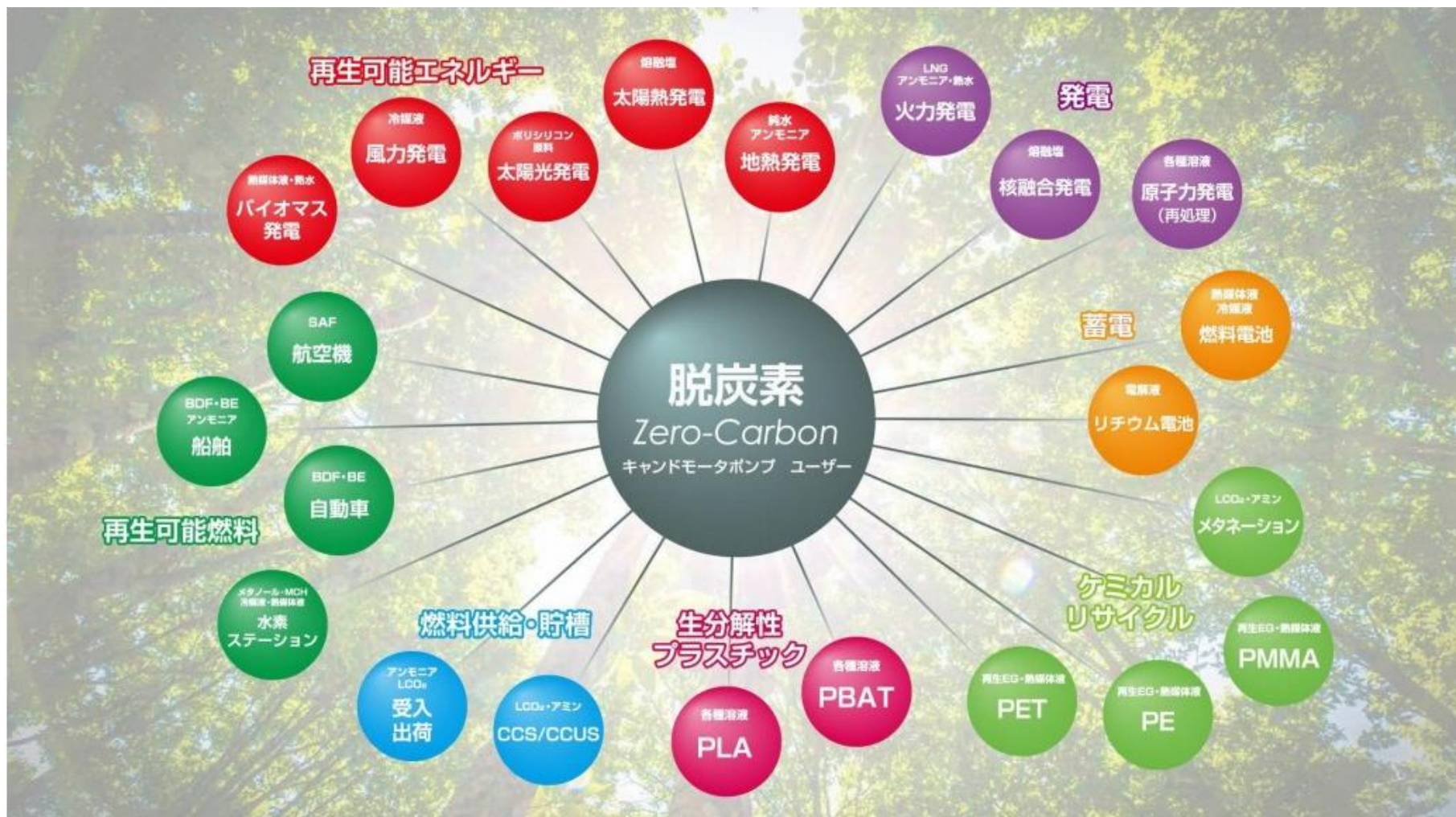
キャン  
ドモ  
ータ  
ポン  
プの  
普  
及  
率



時間 = 環境意識の高まり



## 脱炭素（ゼロカーボン効果）をもたらすエネルギーや化学物質の生成に キャンドモータポンプは不可欠な装置



CO<sub>2</sub>削減プロセスには、「取扱いが難しい物質を厳しい条件下」で扱うことが多い。

→ 厳しい使用条件（危険・高温・低温・高圧・真空など）

→ **液漏れしない、耐久性の高いキャンドモーターポンプはキーパーツ**

用途	難しいコントロールが必要なガス・液体・化学物質の機能
発電 再生可能エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>石炭火力発電所（<b>有毒で刺激臭の強いアンモニア</b>の混焼・専焼）</li> <li>太陽光発電（<b>毒性の強いポリシリコン原料</b>）・地熱発電（<b>純水と有毒なアンモニア</b>）</li> <li>洋上風力発電（<b>冷媒液の管理・メンテナンス</b>）・バイオマス発電（<b>真空工程</b>）</li> </ul>
蓄電	<ul style="list-style-type: none"> <li>燃料電池（<b>脱イオンの純水</b>が必要）、リチウム電池（<b>有毒な電解液</b>を利用）</li> </ul>
ケミカルリサイクル 生分解性プラスチック	<ul style="list-style-type: none"> <li>多種多様な環境（<b>有毒な液体、高圧の環境、真空の工程</b>など）が求められる。</li> </ul>
水素（ステーション）	<ul style="list-style-type: none"> <li>水素輸送・貯蔵には、MCH等の<b>有毒・危険な物質にして輸送・貯蔵</b>する必要あり。</li> <li>水素の充填には<b>冷却用冷媒液</b>が必要。</li> </ul>
燃料供給・貯槽	<ul style="list-style-type: none"> <li>CCSには<b>有毒なアミン溶液</b>を利用し、<b>低温・高圧環境・無漏洩の環境で貯蔵</b>する。</li> </ul>
再生可能燃料	<ul style="list-style-type: none"> <li>船舶（<b>アンモニア</b>）、航空機（<b>SAF:バイオ燃料</b>）、自動車（<b>水素</b>）など</li> </ul>

## 当社が期待を寄せる脱炭素分野

地域により進捗状況は異なるが、中長期的に伸びていくと考えられる。

(下記は既に受注実績や引き合いがある分野)

	実験	実用化	量産化	商業化
石炭火力アンモニア混焼	→			
SAF (持続可能な航空燃料)	→	→		
アンモニア燃料船	→			
水素ステーション (付帯設備等)	→	→		
CCS/CCUS	→			
バイオマス発電	→	→	→	→
洋上風力発電	→	→	→	→
メタネーション	→			
ケミカルリサイクルプラント	→	→	→	→
生分解性プラスチック	→	→	→	→


当社は、液漏れしない、環境に優しいキャンドモータポンプ世界首位

- 地球環境保全のために環境対策が求められている
- 環境対策は、脱炭素化から環境汚染防止・省資源化まで幅広い
- これらの環境対策には、脱炭素化に利用されるアンモニアなど「取扱いが難しい化学物質」を「厳しい条件（危険・高温・低温・高圧・真空など）で扱う」ことが多い。
- 各種環境対策に、液漏れしない、キャンドモータポンプが必要

- 環境対策は、社会的課題であり、問題解決は全ての企業が取り組むべき課題
- キャンドモータポンプの普及が一気に加速する可能性

当社は、環境に優しい事業として、キャンドモータポンプの普及に邁進し、企業価値の向上を従来以上に高めていく





世界中の様々な場所で活躍している  
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの  
リーディングカンパニーです

## 4. 参考資料

(※前回公表時からの変更はありません)

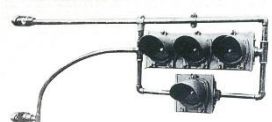


株式会社 帝国電機製作所

# 当社概要と沿革

当社は完全無漏洩構造のキャンドモータポンプを主力事業として、約半世紀にわたって事業を展開しています。

世界各地の石油化学プラント、ファインケミカル、医薬・食品業界、原子力発電所、変電所等様々な分野で活躍し、数多くの実績と信頼を築いています。



1939年  
帝国電機製作所  
設立

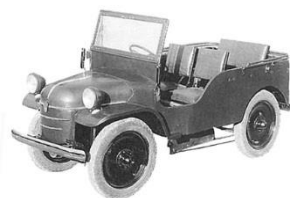
1958年  
A型モータ  
を試作

1991年  
初の海外拠点  
となる  
TEIKOKU USA  
INC. を設立

2003年  
TEIKOKU USA  
INC.が米国クレ  
イン社のケミポ  
ンプ事業部を買  
収

2017年  
本社工場  
リニューアル

1947年  
テイコク製電気  
自動車を開発



1960年  
キャンドモータ  
ポンプの開発に  
成功

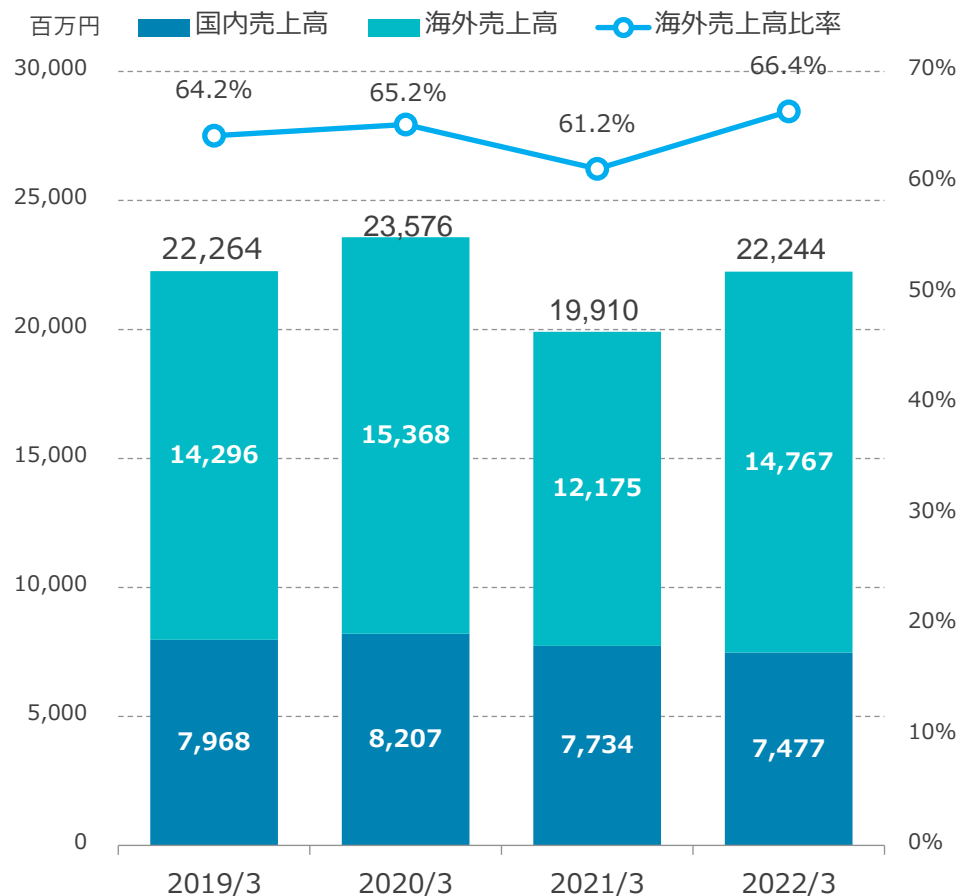


1994年  
中国に大連帝国  
キャンドモータ  
ポンプ有限公司  
を設立

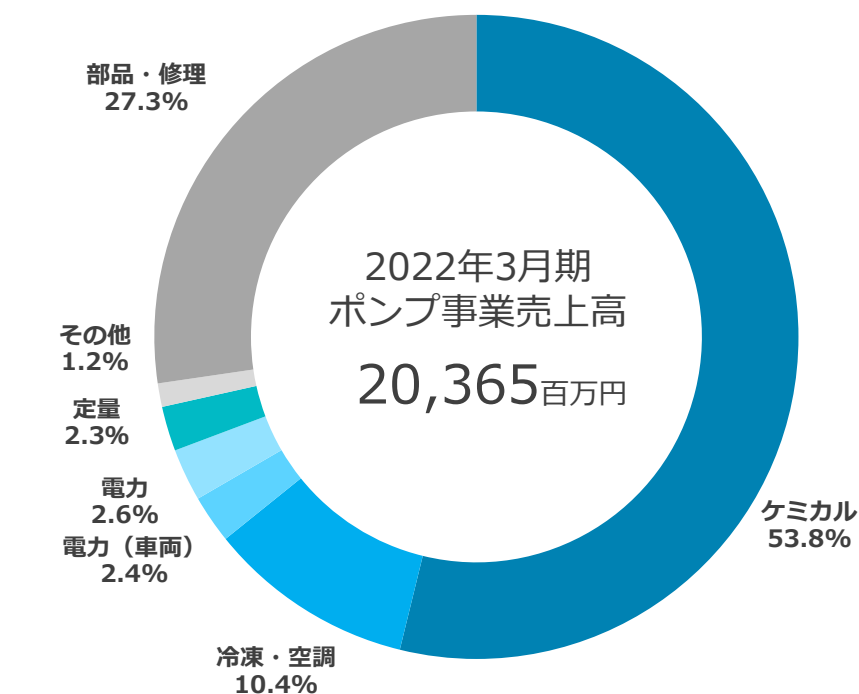
2006年  
東京証券  
取引所市  
場第一部  
に上場

2017年  
インドのHYDRODYNE  
(INDIA)PVT. LTD. を子会社化  
(現・HYDRODYNE  
TEIKOKU(INDIA)PVT.LTD.)

## 国内外売上高比率の推移



## ポンプ用途別売上比率



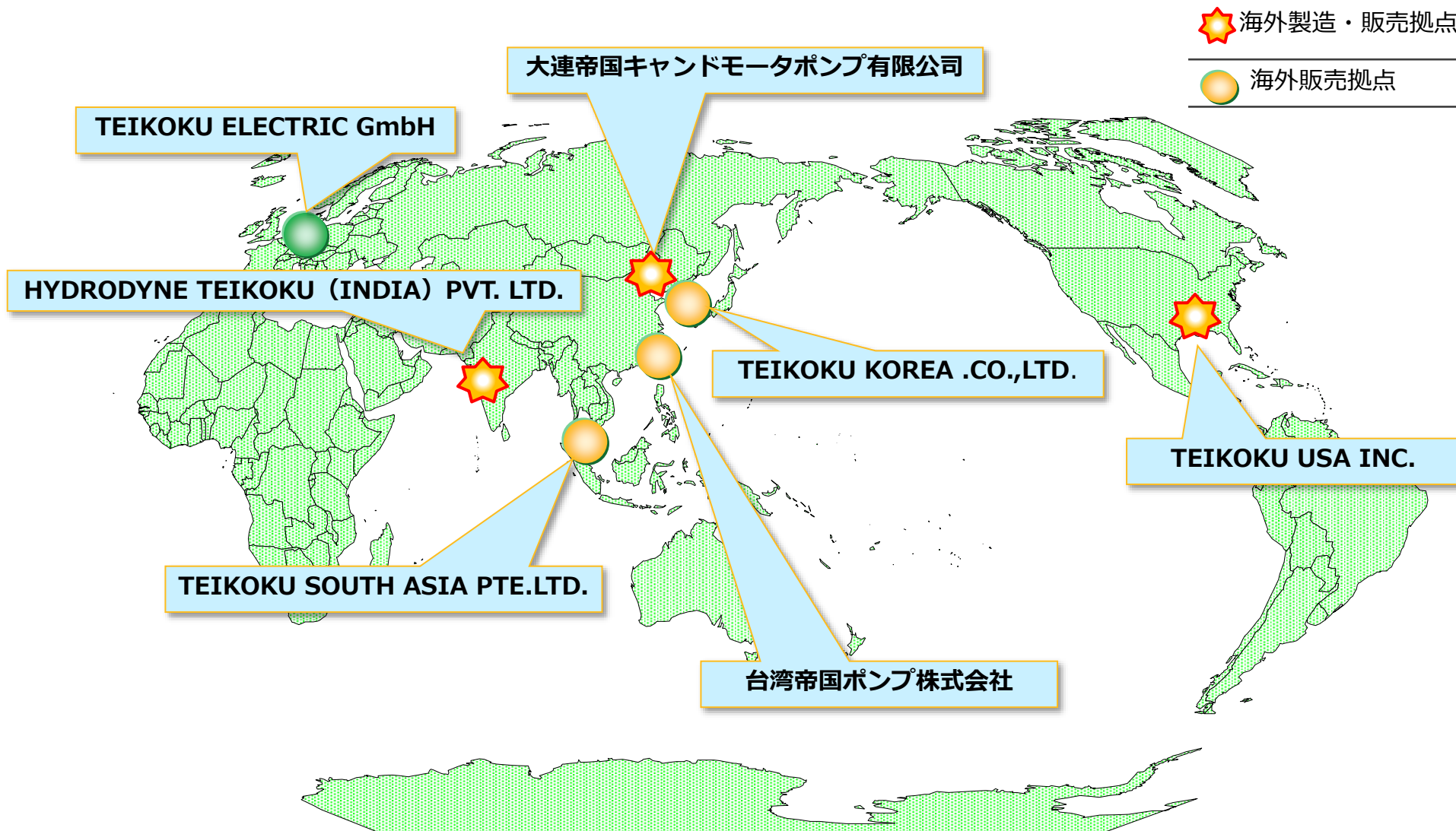
- 売上高の約91.6%は、「キャンدمータポンプ」を主軸とする「ポンプ事業」

# 過去業績の推移



	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
売上高 (百万円)	20,789	22,264	23,576	19,910	22,244
営業利益 (百万円)	2,300	2,025	3,750	2,262	2,494
営業利益率 (%)	11.1	9.1	15.9	11.4	11.2
ROE (%)	6.1	4.1	12.2	8.4	6.8
ROA (%)	7.1	6.6	11.1	7.1	7.9
配当性向 (%)	26.8	46.7	22.5	30.5	48.4
受注高 (百万円)	21,723	24,893	22,234	19,418	25,294
受注残高 (百万円)	7,273	9,843	8,501	8,010	11,061

# 当社の海外展開



完全無漏洩という特徴を活かし、石油化学プラント等様々な分野で活躍しています。



電動油ポンプ

変圧器冷却用に使用されています。変電施設の他、すべてのJR新幹線に搭載されています。



キャンドモータポンプ

国際規格API685に準拠したキャンドモータポンプ。高温・高圧に対する耐久性にも優れています。



定量ポンプ

一定量の液体を正確に移送可能なポンプ。用途範囲が広く、薬品業界等で活躍しています。



大型冷凍機・空調機の冷媒の移送においても、当社のキャンドモータポンプが採用されています。



かくはん機

各種槽内の液体を効率よく攪拌でき、石油化学業界のほか、食品業界等でも活躍しています。





# キャンドモータポンプの特徴



株式会社 帝国電機製作所


## 一般的なポンプとキャンドモータポンプの違い

一般的なポンプはポンプとモータを別々に製造し、それをカップリングして使用するため、回転軸を通したケーシングの隙間から、取り扱い液が外部へ漏れてしまいます。

しかし当社のキャンドモータポンプは、ポンプとモータを一体化し、取り扱い液が密閉される構造であるため、完全無漏洩であることが特徴です。


## キャンドモータポンプの優れた特徴

**1 完全無漏洩**




取り扱い液が外部に漏れるおそれがないので、人体に有害な液、爆発や引火しやすい液、高価な液、腐食性のある液などの取り扱いに適しています。

**2 外気との接触なし**




外気を吸い込まないので、真空系での運転、外気に触れると変質する液などの取り扱いに適しています。

**3 幅広い圧力・温度に対応**



軸シールがないので、系の圧力が高い、高温液、低温液、高融点液などを取り扱うポンプの製作が容易です。

**4 潤滑油いらず**



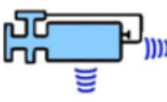
潤滑油を必要としないので、取り扱い液の汚染がなく、給油の手間が不要です。

**5 小型軽量で省スペース**

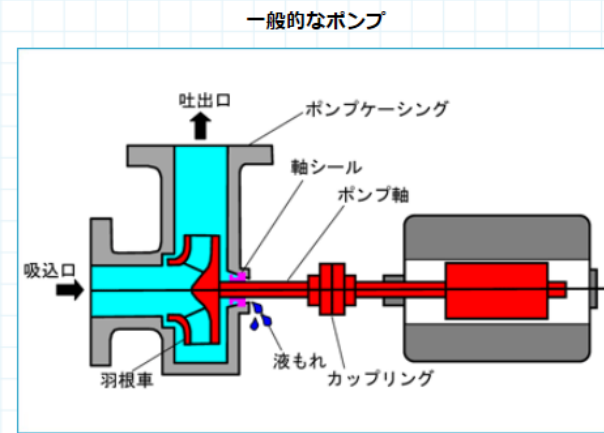


モータ軸がポンプ軸を兼ねているので、小型軽量で設置場所をとらない、分解点検が容易です。

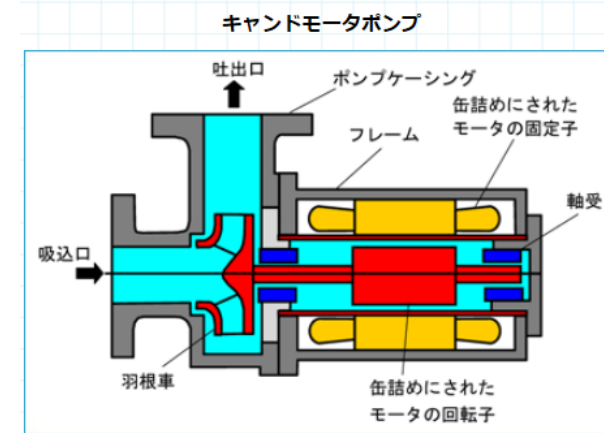
**6 静かな運転音**



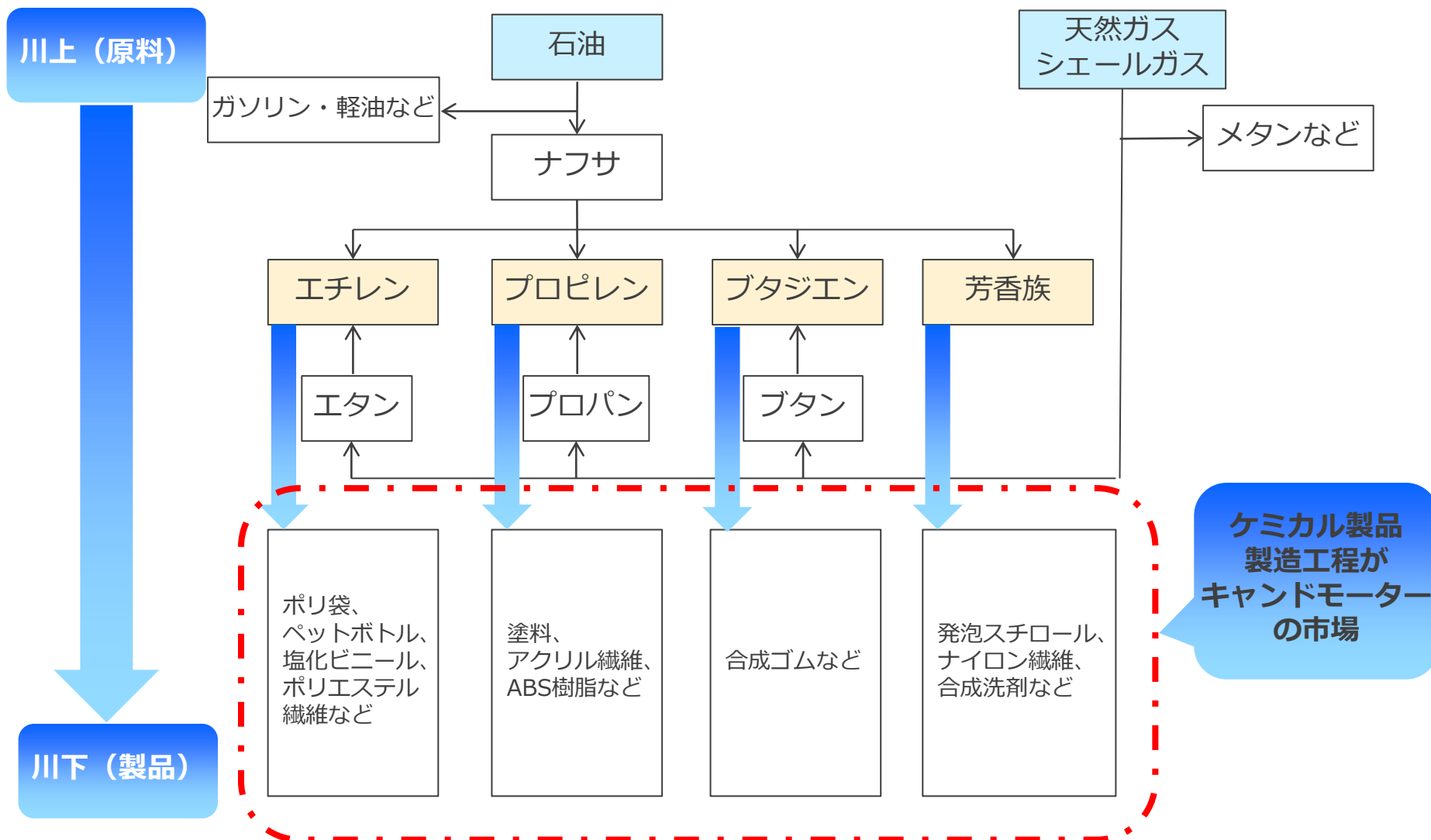
モータを冷却するファンがないので運転音が静かです。



軸シール部から漏洩してしまいます。



ポンプとモータを一体化し、密閉された構造であるため漏洩しません。







モータジェネレータ基板

## 電子部品事業

- 100%子会社平福電機製作所の事業
- 電子部品のプリント基板表面への実装作業中心  
(自動車用・二輪車用85%、産業機械用15%)

### 主力の車載向けに一層注力 (自動車のシステム化・EV化対応)

- 統合ECU (ワイパーや照明等の機能制御機器)
- EPS (電動パワーステアリングシステム)
- SSU (スマートキーレスエントリー)
- モータジェネレータ (車両用発電電動機)
- EV向けモータの回転センサー

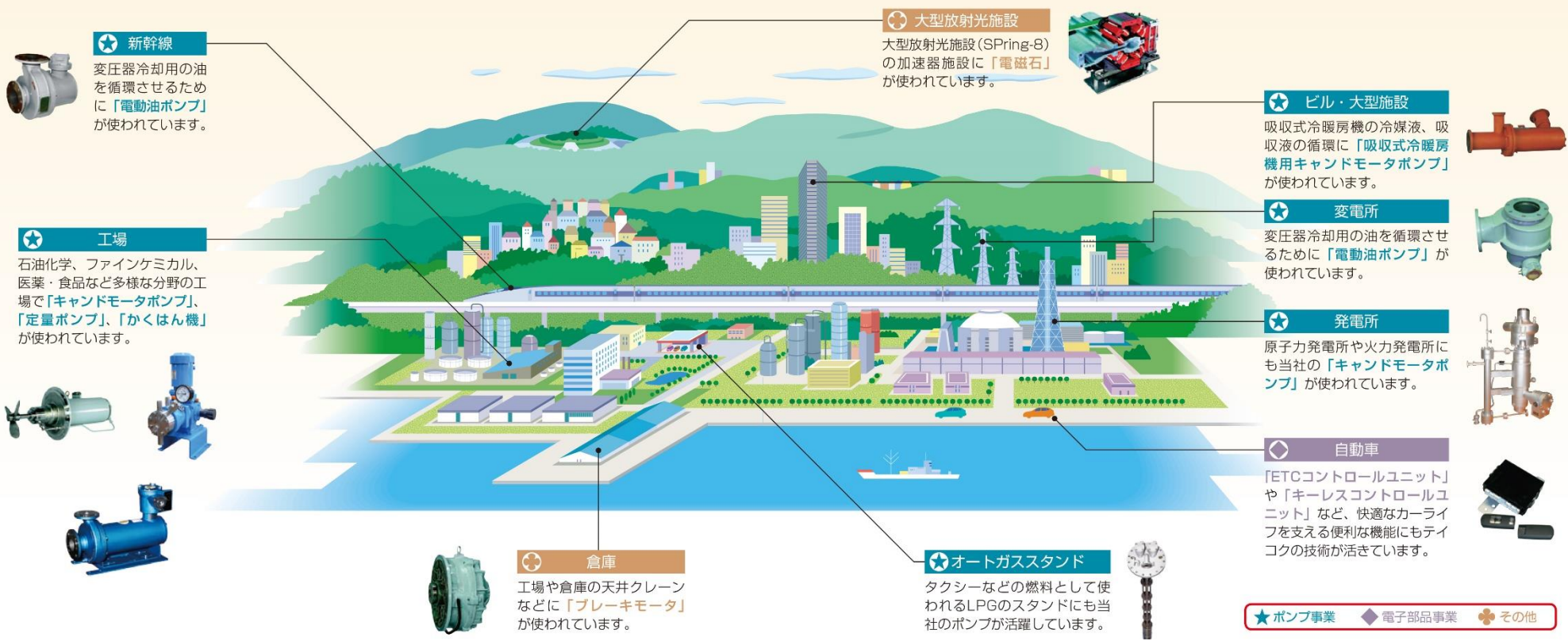
### 産業機械向けの拡充 (省力化投資拡大による需要増)

- シーケンサ (PLC) 用電源基板・表示器

特集

## くらしの中のテイコク

当社の製品は、設備や装置の動力部分に使われているため、一般に目に触れる機会はあまりないと思います。しかし、何気なく利用しているビルや交通機関、また、工場、発電所などにも、当社製品は幅広く活躍しており、快適で便利な暮らしや社会をしっかりと支えています。



★ポンプ事業   ◆電子部品事業   ✦その他

本資料は当社をご理解いただくために作成されたものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれないうようにお願いいたします。